



2026-2027年度 国際ロータリー第2540地区

ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

August 2026 **8**
vol.02

ロータリー特別月間 **8月**

会員増強・新クラブ結成推進月間

Rotary  持続可能なインパクトを
第2540地区 生み出そう

2026-2027年度 ガバナー 土 館 守
2026-2027年度 国際ロータリー会長 オンラインカ・ハキーム・ババロラ

目 次

ガバナーメッセージ	2
第1回ガバナー会議報告	3
クラブ活性化セミナー報告	4
ガバナー公式訪問 本荘RC	5～6
ガバナー公式訪問 矢島RC	7
ウクライナ インターアクト交流報告	8～11
グローバル補助金 報告	12
新会員紹介	13
ロータリー財団・米山記念奨学会 寄付者	14
2026年6月会員数の増減	15

ガバナーメッセージ



国際ロータリー第2540地区
2026-2027年度ガバナー

土 舘 守 (大館ロータリークラブ)

新年度がスタートしてはや1ヶ月、皆様には、良いスタートができたでしょうか。7月1日の大阪でのガバナー会を皮切りに、クラブ活性化セミナー、ウクライナからインターアクトの来訪、そして公式訪問の開始と、めまぐるしい日々が過ぎていきました。まさにガバナーの忙しさを実感しています。

これから、地区は各委員会の活動が活発となり、色々な参加依頼が来るかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。またガバナーは、これから各クラブを回ります。各クラブの特徴を知ることは、私にとって楽しみであり、期待でわくわくします。どんな奉仕活動をしているか、また運営上の工夫、経費の削減案、ステータス向上の秘訣など、各クラブに違った物語があると思います。ぜひ物語をお聞かせください。また、なりたい未来など共通のテーマがあれば、共に努力しようではありませんか。

8月は、「会員増強・新クラブ結成推進月間」です。耳にタコが出来るくらい聞かされていると思いますが、来年1月1日に地区の会員数が1,100名を割ると地区は合併させられます。地区が合併となれば、奉仕活動や地区とクラブの連携に重大な不便が生じます。なんとしても合併は阻止したいと決意してお

ります。是非各クラブにおきましては、2名の増強をお願いしたいと思っております。また退会防止も重要です。新会員向け手引書など、準備してますでしょうか。地区のホームページに「世界のロータリー・日本のロータリー」などの資料があります。是非活用してみてください。

会員拡大は、「候補者のリストアップと、誰がお声かけするか」が、重要です。掛け声ばかりではなく、会員一人一人が、決意をもって行動する事が必要です。その為にはクラブ会長の志が大切ですので、あきらめず頑張ってください。また、視点を変えて、衛星クラブの可能性なども考えて頂ければありがたいです。

ロータリーはお金がかかります。でもそれ以上に、企業経営や人生経験に貴重なヒントが得られます。また、家族会員などの幽霊会員を増やすことに抵抗がある会員もいるかと思いますが、地区が維持してこそ、奉仕活動がやりやすくなり、真のロータリアンを増やすことが出来ると確信しております。8月の会員増強強化月間にあわせ、今一層の努力をお願いいたします。

第1回ガバナー会議 報告

国際ロータリー第2540地区
2026-2027年度ガバナー

土 舘 守 (大館ロータリークラブ)

7月1日、ヒルトンホテル大阪にて、第1回ガバナー会議が開催されました。同期を代表して議長は、谷一文子(2580地区)、副議長は武藤英正(2750地区)、横田孝久(2660地区)に決まり、会計は中込仁志(2780地区)となりました。

ガバナー会の役割は、日本のロータリーの為に知恵を出し合う機関で、長い歴史があります。今の課題は、組織のスリム化を進め、会費の負担を少なくする事。またロータリー文庫に関して、ガバナー会との話し合いが進み、ガバナー会の8条委員会への統合を目指してスリム化を推し進める事が出来た。との報告があった。

危機管理委員会からは、各地区のガバナーに、地区のガバナンスの強化を図って欲しいとの依頼が

あった。特にハラスメントについては正しい認識をもって、しっかりやって欲しい。現在、係争中の事案もあるとの事です。ハラスメントに関しては、どの地区にも潜在的に起きている問題で、ロータリアン同士の個人攻撃は、「しない、させない、見逃さない」の三原則を守って欲しい。

その他の委員会についても、日本のロータリー会員の減少に合わせ、委員の数を減らしている。

国際大会、ほとんどが開会式にしか参加しませんが、今回の台北大会の閉会式は非常に感動的でした。来年の日本人朝食会は、見積段階で2万円を超えたため、開会式前日に、ジャパンナイトとして、夜開催する事としました。第2回は12月1日とするが、9月にZOOMで臨時のガバナー会議を予定しています。

今回、ロータリー文庫が、ガバナー会より厳しい意見が相次いだ為、かなり運営や利用改善に努力していたことが印象的でした。



2026-2027年度クラブ活性化セミナー開催報告

地区副幹事 宮 越 匡 (大館ロータリークラブ)

土館ガバナー年度の最初のセミナーとなる「クラブ活性化セミナー」は7月4日(土)、大館市のプラザ杉の子で開催されました。今回は会員増強に特化した内容で、パストガバナーや各クラブから100人を超える参加者が活発に意見を交わしました。

「会員増強維持決起集会」とサブテーマを設けた今回のセミナー。挨拶に立った土館ガバナーは「今までの人的ネットワークの深堀や、未加入の職業分類の会員開拓を実施すれば、まだまだ第2540地区の維持は可能であると思っています。私はガバナーとして先頭に立って頑張っていきますので、ご協力をお願いいたします」と力強く呼びかけました。

地区成長戦略計画委員会の嶋田康子委員長は「新会員を増やしても一方で退会者が出ては意味がない。会員増強と退会防止は車の両輪。覚悟を持って臨んでほしい」と訴えました。これを受け7つの地区別グループセッションが行われ、報告では具体的な入会候補者数が発表されました。また、課題とし

て「会費が高い」「少人数クラブではゲストを招きにくい」などが挙げられ、具体策として「会員、企業名簿の共有」「退会者の再勧誘」「例会や奉仕活動の充実によるアピール」といった意見があり、「補助金を使った事業の実施で衛星クラブ発足につなげたい」とする具体的なアイデアも提案されました。

この日は初の試みとして、会場でグーグルフォームを使った会員増強に関する課題や具体策についてのアンケート調査が行われました。集計した会員拡大増強委員長の藤盛公之委員長はデータの重要性和共有を呼びかけ、「会員は専門性や経験を生かし様々な分野で社会貢献しており、こうした人たちと出会い、視野を広げられるのがロータリーの良さ」として、「入会の価値を積極的にアピールして会員増強に結び付けてほしい」と呼びかけました。

席上、ロータリー財団委員会の渡部羊三副委員長から補助金の申請状況について説明があったほか、土館ガバナーからガバナーノミニーとして岡本啓一氏(秋田ロータリークラブ)が紹介されました。懇親会は桑山明久・直前ガバナーの乾杯で始まり、岩佐信宏ガバナーエレクトの中締めまで、参加者が交流を深め大いに盛り上がりました。



ガバナー公式訪問報告

本荘ロータリークラブ

ガバナー 土 舘 守

7月17日（金）小園旅館にて、土舘ガバナー初の公式訪問を行いました。昨年度、桑山ガバナーを輩出して、第2540地区に貢献していただきました。少人数の分区だけに、大変な苦勞があったと思います。まずは、足掛け3年に渡る努力に敬意を表しました。

今年度、後藤敬太会長率いる本荘 RC は、思い切り IT を推進しています。これは、事務局が去年商工会から、会員の会社に間借りすることになり、事務員に負担を掛けない為、スマートフォンを最大

限利用して、例会の出欠やプログラムの案内、AI を利用し 3 分で週報を作るスキル、などです。

また、自身の入会時の経験から、わかりやすい新会員の手引きを作成し、退会防止に役立てます。さらに、出張の多い会員の為、ホームページに詳しくクラブの活動を紹介するなど、運営に努力が見られ、まさに未来志向のクラブであると実感いたしました。

横浜北 RC と親交があり、3 年前に友好クラブの調印を行ったとの事でした。また、会員拡大では、もっと役に立つロータリーを PR して、2 名は増員したいと述べておりました。公式訪問に行って、今回はガバナーの方が沢山教えてもらいました。今後、ますますの発展を祈念します。



ガバナー公式訪問報告

本荘ロータリークラブ

幹 事 大城 慶明

7月17日、小園旅館にて土館ガバナーをお迎えし、ガバナー公式訪問を開催いたしました。年度最初の公式訪問ということもあり、会員一同心より歓迎申し上げました。

例会に先立ち行われた会長・幹事面談では、当クラブの現況や今年度の方針について意見交換を行いました。会員増強や事務局機能のあり方に加え、AIを活用した会報や新入会員向け資料の作成、会員限定ホームページによる情報共有などの取組をご紹介し、貴重なご助言をいただきました。

例会では、土館ガバナーより地区スローガン「初心の感動を忘れず、地域と共に奉仕を实践しよう」のもと、職業奉仕の重要性や会員増強、青少年活動支援、公共イメージ向上などについて講話をいただきました。また、ITやAIの活用など、変化を恐れず挑戦することの大切さについてもお話しいたしました。

本荘ロータリークラブでは、後藤会長の掲げる「不易流行」のもと、伝統を大切にしながら新しい取組にも挑戦してまいります。今回の公式訪問を通じて多くの学びと励ましをいただき、今後のクラブ運営や奉仕活動への大きな力となりました。土館ガバナーをはじめ、ご来訪いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



ガバナー公式訪問報告

矢島ロータリークラブ

ガバナー 土館 守

7月21日、由利本荘市矢島の日新館にて、矢島RCの公式訪問を行いました。

コミュニティーセンター日新館は由利高原鉄道矢島駅の前にあり、当日は鳥海山がきれいに見えました。

矢島RCは現在8名の会員がいますが、埼玉県在住の会員もいて、小さな町での会員確保に苦労

しているとの事です。

今年60周年を迎えますが、記念式典は行わず、記念事業のみ実施するとの事です。

郷土の英雄、三浦東蔵道賢を顕彰して、群馬マンドリン楽団の演奏会を予定しているとの事でした。小さなクラブのでっかい事業が成功するよう祈ります。



国際ロータリー第2232地区インターアクトクラブ生徒受入事業 事業報告書

国際奉仕委員長 **阿部 大助**

(秋田中央ロータリークラブ)

2026年7月9日(木)から11日(土)まで、国際ロータリー第2232地区(ウクライナ)より、チェルカースィ市第27高校の生徒2名及び引率教員1名(校長先生)が秋田を訪れ、国際ロータリー第2540地区として受け入れを行いました。

この事業はもともと国際ロータリー第2520地区61周年記念インターアクト年次大会に参加するため7月7日～22日の予定で来日したウクライナの高校生が、他地区の学生とも交流する目的として当地区が選抜されたものです。当地区が選抜されたのは、第2232地区とICCを締結しており、第2520地区と比較的近距离であったためです。このため、ICC事務局のパブロヴァ・アンナさん(多賀城 1300 ロータリー衛星クラブ)と、滞在先の仙台育英学園の渡辺教諭が同行してきてくださり、総勢5名にご来秋いただきました。

7月9日午後、JR秋田駅に到着した皆さんをお迎えにあがり宿泊先までお連れした後、秋田市民俗芸能伝承館「ねぶり流し館」を見学し、竿燈まつりについてレクチャーを受けていただいたり、実際に竿燈に触れたり、太鼓でお囃子をたたいたりして楽しんで



もらいました。その後千秋公園の散策や秋田県立美術館で藤田嗣治の「秋田の行事」等を鑑賞しました。桑山直前ガバナーのご芳志で秋田名物「ババヘラアイス」も堪能してもらえました。この日の様子は秋田魁新報より取材を受け、7月10日に記事が掲載されています。最後に秋田キャッスルホテルの「日本料理 佐藤養助」で歓迎食事会を行いました。

7月10日は、増田まんが美術館、増田の蔵等街並み見学、横手焼きそばを昼食として味わった後、平成高校にて同校のインターアクトクラブと交流をしました。

その後、秋田市に戻り、ホテルメトロポリタン秋田のバーベキューテラスにて、翌日以降仙台に戻ってからの過密日程を乗り越えられるよう、様々なお肉を



インターアクトクラブ生徒受入事業 事業報告書

堪能してもらいました。言葉の壁があり、十分な交流ができませんでしたが、その表情で喜んでくれていることが分かりました。

7月11日は、あいにくの天気でしたが、男鹿水族館 GAOの見学をしました。タイミングよく、ホッキョクグマのモモ太君が出てきてくれましたが、もう少しゆっくり滞在できれば良かったです。入道崎の食堂で海鮮丼を食べていただきましたが、天気のため男鹿の景色を堪能してもらえず残念でした。土砂降りの雨の中、秋田市に戻りJR秋田駅にてお見送りをしました。

今回3日間にわたり、当地区の米山記念奨学生のお二人ホロブニャ・アナスターシャさん（秋田港RC）とセルビナ・アリーナさん（秋田西RC）も同行し通訳や高校生のサポートをしてもらいました。お二人のお

かげで生徒さんも校長先生も安心して秋田を楽しめたようです。お二人にも感謝したいと思います。

今回、各クラブへの周知ができなかったこと、地区の関係委員会のメンバーの力を十分に活かせなかったこと、桑山直前ガバナー、岩佐ガバナーエレクトに運転手をさせてしまったことが反省点です。



インターアクトクラブ生徒受入事業 事業報告書

インターアクト委員長 黒丸 雄平 (横手ロータリークラブ)

10日(金)は平成高等学校の期末試験最終日であったため、インターアクターとの交流会は午後からになりました。そのため午前中は横手市増田まんが美術館と増田の蔵の見学を行いました。

最初に訪れたまんが美術館では、まんがの原画をデジタルアーカイブする作業を見学したり保管してある数多くの原画や単行本を見たりしました。子どもたちよりも土鎗ガバナーを筆頭に大人たちの方が夢中になっていたのが印象的でした。

続いて歴史的建造物の蔵を見学いたしました。内蔵付きの3階建ての木造建築やおよそ100Mもある間口の狭い商店を見学し、その独特の構造や木造建築など歴史や文化に触れました。どちらかというと、まんが美術館よりもこちらの方に興味があったかもしれません。

昼食を挟み平成高等学校に向かいました。学校では、インターアクトクラブのほか茶華道部の生徒が迎えてくれました。日本語と英語でお茶の作法の説明を受け、お茶をいただきました。華道では、手本を見ながら実際にお花を生ける体験を行いました。二人

ともそれぞれの感覚で初めてとは思えないくらい上手に出来たと思います。

2時間弱という短い交流時間ではありましたが、インターアクターをはじめ、茶華道部の生徒や顧問先生のおもてなしの気持ちは十分伝わったものと思います。

また今回は世界平和について学ぶという深い階層でのイベントとはなりませんでした。現実にはウクライナの同世代の高校生と交流したことで、これを機に彼女たちの周りで起こっていることを自ら調べ、そして考えるきっかけになったのではないかと思います。



インターアクトクラブ生徒受入事業 事業報告と御礼

国際ロータリー第 2540 地区

ガバナー 土 舘 守 様

ガバナーエレクト 岩 佐 信 宏 様

直前ガバナー (日本-ウクライナ ICC シニアアドバイザー)

桑 山 明 久 様

国際奉仕委員長 (日本-ウクライナ ICC 地区委員長)

阿 部 大 助 様

関係者の皆様

いつも大変お世話になっております。

日本-ウクライナ国際共同委員会 (ICC) 事務局の
パブロヴァ・アンナです。

改めて、このたびはウクライナ・チェルカースィ
市第27学校インターアクトクラブの【ICC 平和プロ
グラム】に際し、第2540地区の皆様には温かくお迎え
いただき、心より感謝申し上げます。

昨夜、生徒たちは全員無事に成田空港を出発い
たしました。本日はポーランド・ワルシャワを経由し、
ウクライナ・リヴィウへ向かい、その後列車を 2 回乗
り継ぎ、明日の夜にはチェルカースィへ到着する予定
です。

秋田で過ごした3日間は、生徒たちにとって忘れ
ることのできない大切な思い出となりました。平成高

等学校インターアクトクラブの皆さんとの交流をはじ
め、多くの方々との出会いを通して、日本の温かさや
平和の尊さを心から感じることができました。

また、日本-ウクライナ 国際共同委員会 (ICC) の
活動に深いご理解とご協力を賜りましたこと、改め
て心より御礼申し上げます。皆様のお力添えがあっ
たからこそ、この平和プログラムを無事に実施するこ
とができました。

今回の平和プログラムの様子や活動につきま
しては、下記の多賀城1300ロータリー衛星クラ
ブの公式SNSでもご紹介しております。ぜひご
覧いただけましたら幸いです。

公式 Instagram: <https://www.instagram.com/t1300rsc/>

公式 Facebook: <https://www.facebook.com/t1300rsc/>

これからもICCを通じて、日本とウクライナの友情、そ
して青少年交流を継続し、未来へつないでまいりま
す。

皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げ
ます。

本当にありがとうございました。

日本-ウクライナ Intercountry Committee (ICC)
事務局長 パブロヴァ・アンナ



グローバル補助金 報告

ロータリー財団グローバル奨学生

千葉 菜穂子

前回の活動報告書を提出してから約2か月が経過しました。その後も、大学院での学びを地域での教育実践や研究へとつなげながら、充実した日々を過ごしてきました。

5月上旬に春学期を無事に終え、大学院1年目のすべての科目でA評価を修めることができました。授業で第二言語習得理論や英語教授法について学ぶ一方、5月には、私が住むケント市の隣にあるアクロン市のPROJECT LEARN OF SUMMIT COUNTYおよびINTERNATIONAL INSTITUTE OF AKRONという2つの地域に根ざした英語教育機関において、ボランティア活動に取り組みました。両機関では、難民や移民の方々への英語指導に携わりながら、学習者の生活背景や学習目的に応じて、教師がどのように指導方法を工夫しているのかを観察しています。こうした実践を通して生まれた問題意識をもとに、現在は教師へのインタビューや授業観察を行い、地域に根ざした英語教育における教師の認知 (TEACHER COGNITION) について研究を進めています。

その後、5月下旬にはカナダのアルバータ大学で開催されたACLAに参加し、秋学期に取り組んだ読解力と読解力の向上に関する研究成果をポスター発表しました。大学院で取り組んできた研究成果を国際学会で発表する機会を得ることができ、研究者との交流を通して、自身の研究を広く発信する貴重な経験となりました。

学会終了後はそのままイタリアへ渡り、ケント州立大学フィレンツェ校を拠点とした約3週間の夏学期教育実習に参加しました。現地では、幼児から成人まで幅広い年齢層の学習者に英語を指導し、大学院で学んだ理論を実際の授業でどのように生かすかを考えながら実践に取り組みました。異なる文化的・教育的背景を持つ学習者と向き合った経験は、学習者の多様性に応じて指導を調整することの重要性を改めて考える機会となり、現在進めている研究にもつながる学びとなりました。

6月末には、パスポート更新のため日本へ一時帰国しました。帰国中には田沢湖ロータリークラブ様で、これまでの留学生活や研究、教育実践について報告する機会をいただきました。大学院での学びに加え、地域でのボランティア活動、学会発表、イタリアでの教育実習についてお話しする中で、この1年間に積み重ねてきた学びや実践が、それぞれ独立した経験ではなく、相互に結び付きながら自身の教育実践や研究の基盤となっていることを改めて実感しました。また、会員の皆様から温かい励ましのお言葉をいただき、ロータリーの皆様のご支援に感謝の気持ちを新たにしました。

今後はアメリカへ戻り、ボランティア活動、大学での留学生への英語指導、修士課程の授業を継続しながら、これまでの実践をもとに研究をさらに深めていく予定です。引き続き授業観察やインタビューを行い、教師が学習者の多様な背景やニーズにどのように対応しているのかを明らかにするとともに、その成果を修士論文や学会発表へと繋げていく予定です。引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。



新会員紹介

秋田南ロータリークラブ



ほ さか しょう ご
保坂 省吾 会員
(7月17日 入会)

紹介者：石黒 学・石黒 慎
勤務先：株式会社 ホサカ
役 職：代表取締役

秋田南ロータリークラブ



なが い きみ たか
永井 公賢 会員
(7月10日 入会)

紹介者：田村典美・熊谷勇人
勤務先：株式会社 Active off
役 職：代表取締役

大曲中央ロータリークラブ



よし だ あきら
芳田 玲 会員
(7月8日 入会)

紹介者：吉川 壮
勤務先：セブンイレブン大仙飯田店
役 職：マネージャー

湯沢南ロータリークラブ



しょう じ たかし
東海林 隆 会員
(7月1日 入会)

紹介者：京野 學
勤務先：秋田銘醸(株)
役 職：取締役経営管理室室長

角館ロータリークラブ



たか はし たか ゆき
高橋 貴幸 会員
(7月1日 入会)

紹介者：後藤 薫
勤務先：仙北市介護老人保健施設
にしき園
役 職：事務長

ロータリー財団寄付者

●マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

大曲ロータリークラブ

かま だ しゅん
鎌田 俊 会員

入会年月日・ロータリー歴・その他

2014年入会

2017-2018年度 幹事

2025-2026年度 副会長

2026-2027年度 会長

●ポール・ハリス・フェロー

大曲ロータリークラブ

やま だ しん すけ
山田 伸祐 会員

入会年月日・ロータリー歴・その他

2018年入会

ロータリー歴 8年

米山記念奨学会寄付者

●米山功労者

大曲ロータリークラブ

あり あけ ひで た ろう
有明 秀太郎 会員

入会年月日・ロータリー歴・その他

1963年入会

1969-1970年度 幹事

1984-1985年度 会長

2011-2012年度 地区財務委員長

米山功労者 12回目

2026年6月会員数の増減

グループ		クラブ名	会員数				増減
			2025年 7月1日(A)	2026年 6月末(B)	うち 女性	うち 40歳未満	増減数 (B)－(A)
北	大館鹿角	大 館	35	39	2		4
		花 輪	20	19	1	0	-1
		鷹 巣	7	3			-4
		大 館 北	14	12	2		-2
		十和田秋田	27	24	1	0	-3
		大 館 南	31	32			1
		大 館 中 央	15	14	1	0	-1
	能代男鹿	能 代	47	52	9	1	5
		男 鹿	8	8			2
		二 ツ 井	5	1			-4
		五 城 目	12	10			-2
		潟 上	28	28			0
		男 鹿 北	10	6			-4
		山 本	12	11	0	0	-1
中央	秋 田	能 代 白 神	14	12			-2
		秋 田	112	110			-2
		秋 田 東	83	80	5	1	-3
		秋 田 港	41	40			-1
		秋 田 北	55	58	4	0	3
		秋 田 南	42	41			-1
		秋 田 中 央	41	40	5	0	-1
	本荘にかほ	秋 田 西	21	22	3	2	1
		本 荘	36	36			0
		矢 島	7	7			0
		象 潟	9	9			0
		本 荘 東	20	20	3	0	0
		本 荘 南	6	6	3	0	0
南	大曲仙北	大 曲	53	53	3	4	0
		角 館	13	14			1
		大 曲 南	15	14	2	0	-1
		大 曲 中 央	11	12			1
		田 沢 湖	20	19			-1
		大 曲 仙 北	12	12	6	1	0
	横 手	湯 沢	70	69	2	3	-1
		横 手	53	52			-1
		横 手 南	69	62			-7
	湯沢羽後	西馬音内	15	16			1
		湯 沢 南	21	18	1	1	-3
		稲 川	15	15	3	1	0
横 手 東		12	13	0	0	1	
合 計			1,137	1,109	56	14	-26

※40歳未満の会員数は未記入のクラブが多いため回答があったクラブのみの集計